第2回組織開発ラボラトリー

「Dealing with Covert Processes（隠れたプロセスを取り扱う）」

担当者	Dr. Robert Marshak氏 中村　和彦（南山大学人文学部心理人間学科准教授） 津村　俊充（南山大学人文学部心理人間学科教授）
概要	組織開発（OD: organization development）の源流はＴグループにあります。1950年代の終わり頃より、Ｔグループのトレーナー達が、グループへの働きかけの知識やスキルを、企業のミーティング場面でのチーム・ビルディングに応用していったのが、組織開発の始まりでした。日本においてＴグループを長年実施してきた当センターとしては、米国における組織開発の理論と実践をラボラトリーとして体験から学ぶトレーニングを日本で実践することも重要なミッションであると考えています。このたび、組織開発について体験から学ぶラボラトリー（＝組織開発ラボラトリー）として、NTL Instituteとのパートナーシップに基づき、この分野で著名なロバート・マーシャク氏を日本に招聘し、「Dealing with Covert Processes（隠れたプロセスを取り扱う）」のトレーニングを開催いたします。 組織開発とは、組織の効果性と健全性を高めることをめざした、計画的で長期的な変革の実践であり、組織文化や人的要因（やる気や満足度、コミュニケーション、人と人との関係性、協働性、リーダーシップ、規範など）のプロセスに働きかけるための理論や手法の体系です。コーチング、ファシリテーション、チーム・ビルディング、プロセス・コンサルテーション、フューチャーサーチ、ワールドカフェ、ＡＩなど、個別の手法として日本に紹介・導入されているものも、米国においては全て組織開発（ＯＤ）の歴史と体系のもとに発展してきました。組織開発の発展にはNTL Instituteのメンバー（シャイン、ベックハード、アージリス、バークなど）が貢献してきました。 当センターは、組織開発についての理解と体験から学ぶ機会となることをめざして、2009年度より、米国から講師を招聘しての組織開発ラボラトリーを開催しています。今回は第２回の開催となります。 【目的】 今回のトレーニングは、組織開発（organization development）の介入手法の中でも、グループ（チーム）レベルに対する働きかけを学ぶものです。グループプロセスとは「グループの中で、お互いの間に起こっている」関係的な過程を指します。会議やミーティング場面などで、「テーブルの下」で起こっている隠れたプロセスが、話し合いの成果や質に影響することが多々あります。Covert Process（見えない／隠れたプロセス）とは、個人やグループ、組織の中にある隠れたプロセスの次元であり、生産性を下げたり変化を止めたりしているものです。本講座では、このようなプロセスの理解の仕方や視点を学ぶとともに、診断し、働きかける態度やスキルを学びます。組織開発コンサルタントやファシリテーター、コーチ、マネージャーやリーダーなど、人と人の間に起こるプロセスを取り扱い、その変革を志向する方々に適しています。 【講師】 講師のロバート・マーシャク氏は、組織開発コンサルタントであり、NTL Instituteのメンバーです。アメリカン大学AU/NTL組織開発大学院（修士）プログラムの常勤上級研究員（Senior Scholar in Residence）として、組織開発を大学院生に教えています。米国OD Networkの生涯功労賞（Life time Achievement Award）を受賞。組織開発の実践家および理論家であり、60本以上の本・論文を執筆してます。代表作は"Covert Processes at Work: Managing the Five Hidden Demensions of Organization Change."（2006年）＜未翻訳＞。 【プログラムの進め方】 このトレーニング・ラボラトリーでは、理論を学ぶセッションや、全体でワークに参加し学ぶセッション、グループでのセッションからプログラムは構成されます。なお、夕食後にも午後9時頃までセッションが行われます。
日程	2011年 1月22日（土）午後2時開始～28日（金）午後1時終了（6泊7日）
定員	21名
会場	（財）ＫＥＥＰ協会・清泉寮 〒407-0311 山梨県北杜市高根町清里3545 ※寒い季節のため、防寒具をお持ちください。
受講料	受講料　160,000円 滞在費　63,900円（ツイン使用）/78,900円（シングル使用）　（宿泊費・食費・会場費含む） ※この講座では、受講料に対する学割は適用されません。
メルマガ 講座報告	担当講師　中村和彦　記 米国よりNTLメンバーのロバート・マーシャク氏を招聘して、1月22日（土）～1月28日（金）の6泊7日で、「隠れたプロセスを取り扱う（"Dealing with Covert Processes"）」の研修が行われました。この研修 のフルバージョンは6日間または7日間で、マーシャク氏いわく「NTLでこの 研修は今後行わないことになり、3日間などの短いバージョンは今後も大学院やどこかの研修で行うかもしれないが、フルバージョンで行うのはこれが最後になるかもしれない」とのこと、とても貴重な機会だと感じるとともに、ラボラトリーは「今ここ」の１回きりの、ファシリテーターと参加者とが織りなす芸術だなぁと感じました。 組織開発で重要な考え方に、ユース・オブ・セルフ（use of self：自己の活用）というものがあります。 これはゲシュタルト組織開発に由来する考え方で、変革の道具として自らの感性、捉え方、価値観を用いる、というものです。変革に取り組もうとする人（チェンジ・エージェント）が、クライアントとの関わりの中で、クライアント組織の中で起こっているプロセスに気づくとともに、クライアントと自らの関係性に気づき、働きかけていきます。ユース・オブ・セルフのためには、チェンジ・エージェントが自らのものの見方や考え方を点検し、気づく必要があります。 今回の研修では、目の前で起こっていることを人々が捉える見方を「プリズム」という概念で捉えてきました。そして、自らの「プリズム」を洞察し変革を試みる、自己成長の色彩が強いワークショップでした。 組織の変革に取り組む際には、結局は自らのあり方に目を向ける必要があるという、組織の変革（学習）と個人の成長（学習）とのつながりを改めて感じました。